先生という 言葉をやめてみよう
H7.5.1/全日本社会教育連合会
社会教育50巻5号

Question & Answer
「お便り編」
「Mitoさんと山田ともこのお手紙ごっこ」
先生という言葉をやめてみよう

ともこさん、はじめまして、こんにちは。それから、こぶとり小父さん、笑う事務職・まみさん、楽しいやりとりをありがとうございます。さて、このように、ふつう、ひとを呼ぶときは「さん」ですよね、やっぱり。ところが、社会教育の世界では、ひとを「先生」と呼ぶことがけっこう多いのです。そこで、きょうは、「社会教育では、先生という言葉をやめてみよう」という提案をしたくて手紙を書きます。

ぼくは社会教育の仕事を一三年やり、いまは大学の教員をやって五年になるところです。どちらもとても楽しくやらせてもらってきましたが、ときどき「先生」と呼ばれることがあって、そんなとき、「あっ、そんなに立派な人物ではありません」と言い訳したり、こそこそと逃げ出したくなったりして、そして、なんだかうしろめたい気持ちになります。よっぽどやましいところがぼくにあるのかもしれませんが。ああ、たしかにあったりしますけど……。

そこで、ぼくは、授業や社会人研修などで「mitoちゃんと呼んでね」とお願いしています（まあ、ぼくは残念ながらそんなにかわいらしい外見ではないですから、実際には「mitoさん」ぐらいのところが多いですが）。学生なんかはそれを聞くと、「mitoちゃんだって！キャッキャッキャッ」と笑っています。出席ペーパー（自由なコメントのシステム）に「四〇過ぎても、ハタチ前のわたしたちにmitoちゃんと呼ばれたいなんてずうずうしいわね～。でも呼んであげる、mitoちゃん」と書かれたりもします。

しかし、なかには教師を先生以外の呼称で呼ぶことにマジで反発する学生もいます。あるペーパーに（mitoちゃんという呼称は）「おしつけだ」と書かれていたので、翌週の授業で、「まあ、軽い提案ぐらいの気持で受け取ってくださいい」とコメントしたら、「その提案が余計なのです」とぶっくと食い下がられたことがあります。「わたしたちが先生、先生なんて言ってるのは表だけで、友達同士ではイヤなの」と言ってくれる学生もいます。

先公なんか『あのジジイ』と呼んでいる。それは先生なんかはありたくても知ることのできない世界なのです」ということでした。コノヤローという気もしましたが、ナルホドーとも思いました。「先生」という言葉は、本来は「教師」という意味ではなくて尊敬語なんだと思います。でも、むしろ現実には自分たちのこころから教師をシャットアウトするための言葉として使われているのかもしれません。このひとにも尊敬できるところがあると感じる前から相手をセンセイと呼ぶようなことは、奴隷が使用者を「御主人様」と呼ぶのと同じことで、かえって信頼を放棄する結果になっているのではないでしょうか。

ぼくは、先生という言葉をつぎの三つに分類しています。①尊敬先生－「〇〇先生はぼくにとって大切な先生なんだ」、②便利先生－（あっ、名前忘れちゃった……）センセエ、こんにちは！「キャバレーのホステスさんが」社長さん、センセエー、③皮肉先生－「ほら、うわさをすれば影だね。大先生がいらしたぞ。くわばらくわばら。」だから、まあ、言葉はそれなりに妥当に使われているのだともいえないではないのですが……。

しかし、せめて、学校では、教師が自分のことを「ぼくは先生です」と言ってしまったり、職員室で「先生」、「先生」と呼びあったりすることをやめるようにちょっと気をつけたら、学校はもっと居心地がよい世界になるのではないでしょうか。また、とくに、「一斉承り学習」の打破をめざす社会教育としては、学習者の前で講師や社会教育主事の名前を「先生」付けで紹介することは、社会教育の将来にとっても（!?）よくないことではないかと思います。たとえば教育実習などでは実習生が学生から学校現場で「教師としての役割の自覚を高めるために」、「先生」と自称するように、生徒にもそう呼ばせるように、指導されるのです。指導してくれる現場の教師のみなさんの教職にかけける自負の高さはわかるのですが……。もちろん、センセイと呼ばれてちょっとうれしいという学生もいますが、感じなくてもよい余計な重圧を感じてしまう学生もいるのです。「さん」でいいじゃないのでしょうか。自分のことをいうのだったら、「ぼくは」、「わたしは」でいいじゃないでしょうか。

社会教育の場などでは、ぼくも、姓で「西村先生」と呼ばれたり、名で「みと先生」（おっと、これでフルネームを言ってしまった）と呼ばれたりすることがあります。なぜか、名で呼ばれた場合はさほど違和感はなくて、けっこううれしかったりもしますが……。また、学生などのなかには、「mitoちゃん」のほか「mitoちゃん先生」という人もいれば、「西村さん」「mito氏（これは音読したら呼び捨てだ）」「mito ティーチャー」などと書く人もいます。怒って書く人は「あなたは」と書きます。各自、工夫のあとが見られるのです。その人たちには面倒な思いをさせて恐縮ですはありますけれど、「教師への呼称などというどうでもいいことで言葉さがしたんだね」とも思うのです。ともこさんはどう思われますか？

P.S.：ちなみにmitoはもともとパソコン通信でのぼくのハンドル（ペンネームのようなもの）です。

mito